おじさん！園長先生！

学　園　長　　小　島　澄　人

久しぶりにコンクリート壁に、タイル・石・王冠等様々な素材を使っての壁画に没頭しています。先日の三連休は、一日１０時間、三日間ははかどりました。「うーん、私はくたくたになる時生き生きする、どうして？」。毎朝早くから勤務が始まる８時までが何故か楽しい。その後の、門での挨拶も楽しくなる。机で書類、もう結構、この４０年間に幼稚園に書類を求められる量は、正直に言えば１０倍ともいえる。「子どもに関わりたい！」そう叫びたい日本中の園長先生の思いを感じてならない。書類がそろえば安心、いや決してそうではない。私には保育の中身、いかに子どもたちのことを思って、手を汚し汗を流すか、大事にしてきたものが壊され忘れ去られていく危機感を抱いていただけに、壁画作成の時間は「汗を流すことへの」挑戦です。４０年間に、２００余りの壁画を作成したが、「自己満足？　趣味？」と、問われたのも事実でした。けどほとんど勤務時間での作業は避けていても、道楽で？子どもたちに「何かを製作する姿を、殺風景なコンクリート壁にアートを」、その程度の思いです。

今回、三連休に出会った子どもたち、子どもたちとの会話で思うことがありました。「園長先生！」と、声を掛ける子どもたちと、「おじさん！」と声を掛ける子どもたちの話すことが余りにも違うのにびっくりしました。

「園長先生！」　「すごいね！　一人で頑張ってるの！」　「今度幼稚園に来るのが楽しみ！」　「いっぱい水飲んでね！」　「何か貼るものを持ってこようか」　「手伝いたいなあ、お母さんに聞いてくる！」　「ご飯食べてる？　食べてよ」・・・、本当に嬉しく、元気が出ました。園で話したり遊んだり握手・挨拶してきた子どもたちの言葉は本当に「あたたかみ」がありました。

「おじさん！」　「ねえ、おじさん、なんで座り込んでるの、汚い！」「おじさん！その石、買ったの？　お金会社から出たの？」　「作ったらお金でるの？」黙ってると、「ねえ！　いくらもらえるの？」衝撃でした。一人ではない、何人もの子どもが同じようなことを聞くのでした。幼稚園の開放でいろんなところから遊びに来ていますが、私を園長とは知らない子どもたちのほうがはるかに多いとはいえ、普段から接している、本人を知っている、一方知らない、話す内容が余りにも違う。３、４歳に思える子どもからの「その経費、会社から出るの？」、耳にした時、耳を疑った。

子どもには、幼児時代はたくさんの絵本、物語の世界を耳にし、その世界に浸ってほしい。感動する、涙する、感謝する、うれしい、楽しい、面白い、そんな中でのびのび育ってほしい。夢物語、結構。物語のこと、結構。子どもの世界だよ、結構！　いや、むしろ幼児時代に浸ってほしい世界です。

今回は重い話題になりましたが、子どもたちはまだまだ夢ある大事な時、大人びた会話より子どものほほえましい会話があふれてほしいな